

第 43 回

東京消化器内視鏡技師研究会

予 報 集

令和 5 年 2 月 5 日(日)

於:日本教育会館一ツ橋ホール

主催 東京消化器内視鏡技師会



第43回東京消化器内視鏡技師研究会

日 時 2023年2月5日(日) 9:55~15:00

場 所 日本教育会館一ツ橋ホール(千代田区一ツ橋2-6-2)

《プログラム》

- 9:55 開会あいさつ
東京消化器内視鏡技師会会長 谷道 清隆
- 10:00~11:00 《教育講演》
「緊急内視鏡～消化管出血から異物除去まで～」
NTT 東日本関東病院 消化管内科 根岸 良充
司 会 聖路加国際病院 吉田 匡良
- 11:15~12:15 《一般演題》
座 長 国立国際医療研究センター病院 佐藤 真己
1. 内視鏡ビデオスコープ先端部故障の原因究明と対策
日本医科大学付属病院 内視鏡センター 双田 幸希
2. ディスポーザブル持針器を使用時の縫合手技の介助方法
～介助者からアプローチ出来る介助方法～
日本医科大学付属病院 内視鏡センター 金井 佐織
3. 大腸内視鏡検査 腸管洗浄液内服説明方法の取り組み
都立広尾病院 内視鏡センター 佐藤 路子
4. 大腸内視鏡検査の前処置不良の原因を探り、質の高い検査の提供をめざす
相模原協同病院 看護部検査 青木 理恵
5. 2022年度東京消化器内視鏡看護勉強会の活動報告
NTT 東日本関東病院 天笠 絢香
- 12:15~13:45 〈休憩〉 内視鏡関連企業の機器等展示をご覧ください(7階会議室)
- 13:45~14:55 《パネルディスカッション》
【大腸内視鏡検査の前処置対応について】
司 会 河北総合病院 谷道 清隆
演 者 東京慈恵会医科大学付属第三病院 高村 哲子
日本鋼管病院 相沢 典子
国際医療福祉大学三田病院 堀川 由佳
NTT 東日本関東病院 妹尾みどり
- 14:55 閉会あいさつ
東京消化器内視鏡技師会副会長 吉田 匡良

一般演題 1 : 内視鏡ビデオスコープ先端部故障の原因究明と対策

日本医科大学付属病院 内視鏡センター ○双田 幸希、金井 佐織、奥田 隆介
押田 祥甫、上枝 篤矢

【背景】当院 ME 部では 2017 年 10 月より臨床工学技士（以下、CE）が内視鏡センターの一部業務の介入を開始した。CE に対してより高度で専門性の高い業務介入を求められたことにより、2019 年 4 月に内視鏡センターが ME 部より独立し、2022 年 11 月現在、5 名の CE が専属で従事している。独立してから 3 年が経った 2021 年 4 月～6 月にかけて、内視鏡ビデオスコープ（以下、スコープ）先端部の故障が例年に増して立て続けに発生した為、原因究明と対策を検討することになった。

【目的】スコープ先端部の故障、特にピンホールに対する原因究明と対策を検討する。

【結果】CE によるワーキンググループを作り故障の原因を調査・分析した結果、スコープ先端部の故障は 3 ヶ月で 9 件発生し故障率は 0.27 であり、標準偏差にて数値を見ても平均 1.5 に対して 2.14 と大幅なズレがあった。これらの数値からこの故障件数は異常であると判断し、医師や看護師を交えた多職種カンファレンスを実施することで、スコープ運搬時または検査待機時のスコープ先端のぶつけや、検査後一次洗浄待ちのスコープ先端に荷重がかかる状況が特にピンホールを発生させる主な原因と推測し、対策を複数実施することができた。対策以降、年末まで発生件数を 3 件に抑え故障率は 0.03 で標準偏差にて数値を見ても平均 0.5 に対して 0.5 とズレは認められなかった。

【考察】対策後は故障件数が減り、現状は改善された。CE が迅速に対応したことはもちろん、何よりも全スタッフの内視鏡機器類の取り扱いに対する意識向上が故障予防に繋がった。対策内容と減少傾向から総合的に判断して、スコープの過度な積み重ねで発生する荷重や、スコープ運搬時のスコープ同士のぶつかりや擦れ等が主な故障の原因だったと考える。

【結語】故障対策を実施したことにより現状は改善され、CE の業務介入の重要性を示すことが出来た。引き続き、故障予防を念頭に更なる対策と業務改善を実施し、業務拡大を図る。

一般演題 2 : ディスポーザブル持針器を使用しての縫合手技の介助方法 ～介助者からアプローチ出来る介助方法～

日本医科大学付属病院 内視鏡センター ○金井 佐織、双田 幸希、奥田 隆介
押田 祥甫、上枝 篤矢、後藤 修

【背景】2022 年 7 月よりオリンパスマーケティング株式会社より粘膜欠損部の縫合手技をサポートするための処置具であるディスポーザブル持針器 SutuArt（以下、SutuArt）が販売された。当院ではディスポーザブル持針器を使用しての縫合手技の実績が 2022 年 11 月現在で、計 41 例（胃 ESD：28 例、腹腔鏡観察下 LECS：9 例、直腸 EFTR：2 例、難治性出血性胃潰瘍：1 例、POEM：1 例）の実績がある。SutuArt を実際に使うために事前にトレーニングで使用した時と臨床で使用しての縫合法を行った際の介助方法に相違点があったので、より安全に介助につくために実際に臨床で実践した介助方法を検討、工夫した点を報告する。

【目的】安全かつ迅速に介助につくためにより実践的な介助方法を実施したので紹介する。

【結果・考察】実際に工夫したことは以下の通り①介助する立ち位置②介助中の工夫③ハンドルの持ち方に焦点を当て、実際に臨床介助についた。SutuArt は術者と介助者がより細かくタイミングを合わせる必要がある処置具だが、立ち位置を術者の対面に立ち、コイルシースを真っ直ぐに持つように介助するだけでも、よりスムーズに SutuArt を回転させることが出来た。介助者の細かな工夫で、迅速で安全な縫合手技の介助が出来た。

【結語】これまでの経験を生かして、今後の介助のトレーニング、教育、育成に役立てたい。

一般演題 3： 大腸内視鏡検査 腸管洗浄液内服説明方法の取り組み

都立広尾病院 内視鏡センター ○佐藤 路子、高木 由、佐々木直子、高安加奈子

【背景・目的】A病院では大腸内視鏡検査を受ける際、検査当日に口頭とリーフレットで腸管洗浄液内服方法を説明している。患者への説明は、一度で理解を得られない事があり、繰り返し説明する事もあった。また、割り込み業務が入り説明が中断される事や、職員間で説明内容が統一出来ていない現状があった。このため説明が中断されず、分かり易く統一した検査説明を患者に実施したいと考えた。

【方法】①腸管洗浄液内服方法から検査開始までについての説明映像（以下映像とする）を作成し、リーフレットを映像と同じ内容に修正。②映像を待合室でTV・ポータブルDVDでリピート再生し、リーフレットで確認しながら患者が視聴出来るようにした。③映像の内容に関するアンケートを実施。調査期間：令和3年8月～9月。調査対象：期間中に大腸内視鏡検査を受けに来た患者30名。研究目的を説明し、同意を得られた患者に調査用紙を配布。設問は4項目で映像の分かり易さや理解度について回答してもらった。

【結果】調査結果：検査の理解度は良くできた・できたと全員から回答を得られた。映像の内容は全員が分かり易いと回答し「口頭説明より理解できる」「繰り返し映像を確認出来て安心」などの意見が多かった。映像の詳細については、3段階評価で30名中、画像は29名・時間は29名・ナレーションは28名が上位回答であった。映像を視聴してもらう事で、中断されずに統一した検査説明が出来た。

【考察・結論】口頭とリーフレットの説明を視聴覚に訴える映像とし可視化した事が高評価に繋がったと考えられる。さらに映像を繰り返し視聴できるようにした事や、リーフレットにより自身のタイミングで聞き漏れや忘れた事を再確認できるようにした事が、分かり易い説明になったと考える。共通した説明映像を視聴できる環境の整備は、他業務に中断されることなく、統一した検査説明が可能になった。

一般演題 4 : 大腸内視鏡検査の前処置不良の原因を探り、質の高い検査の提供をめざす

JA 神奈川県厚生連 相模原協同病院 看護部検査 ○青木 理恵、三森 真、田中 麻衣
梅澤 由美、阿部 徳子

【背景と目的】近年、大腸がんの罹患率、死亡率ともに高くなっており、大腸内視鏡検査は、大腸がんの早期発見、早期治療のために重要な検査である。当院では、年間約 2700 件の大腸内視鏡検査、治療を行っている。60 歳以上が全体の 75%を占め、男女比は 3:2、そのうち 70%が前処置不良であった。今回既存のパンフレットの使用、前処置の方法も変わらない中で以前より検査中の視界不良や痛みの増強で検査に支障がでる現状がみられるようになった。質の高い検査を提供するために、前処置不良の原因を探る。

【方法】自宅で前処置が行える 60 歳以上の大腸内視鏡検査を受ける患者 100 名を対象に、チェック表を用いて聞き取りと検査中の状況を調査。

【結果】前処置不良は、糖尿病や透析の既往、便秘や便秘傾向の患者に多く見られた。便秘、便秘傾向の患者の男女差は 1:2 で女性に多くみられ、手術歴や洗腸剤服用中に身体を動かすことに大きな差異はなかった。また、前処置不良の原因となる要因がない患者も全体の 25%いる。排便スケール表は患者の主観と医療従事者で差異が生じている。

【考察・結論】近年日本人の食生活の変化と共に、腸内環境も変化していると考えられる。既往を持つ患者も多く、その多くは腸管の動きが低下してしまっていることが考えられる。高齢者の受検も多く前処置の方法の理解が得にくい状況もあると考える。便秘のある患者は排泄不良になりやすく、当日の洗腸剤内服だけでは良好な前処置につながっていない。大腸内視鏡検査予約時の問診で既往歴や大腸内視鏡検査歴、便秘の有無など確認が必要と考える。

大腸内視鏡は前処置が良好であると検査がスムーズであり、見落としがなく、患者への苦痛も最小限にすることができる。今後、前処置で利用するパンフレットの修正改善も必要であり、質の高い検査が提供できる前処置の方法を考えていく。

一般演題 5 : 2022 年度東京消化器内視鏡看護勉強会の活動報告

NTT 東日本関東病院	○天笠 絢香、青木亜由美
医療法人社団進興会	小倉 薫
山崎内科クリニック	坂元 優美
東京慈恵会医科大学付属第三病院	高村 哲子
医療法人社団東京桜十字新宿桜十字クリニック	白井 直美
社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会昭島病院	中森 節子

【はじめに】東京消化器内視鏡看護勉強会は、内視鏡に関する知識やスキル、看護の質の向上を目的に有志により 2010 年 9 月発足された。当会は、大きな会場で行われる研究会と違い、小規模でアットホームの雰囲気の中で講師による講義を受けたり、日々現場で悩んでいることや事例検討などを、他施設の方と情報交換したりできることが特徴である。勉強会を立ち上げてから毎回趣向を凝らし定期的に開催してきたが、2020 年度より COVID-19 の影響を受け、勉強会の開催ができなくなってしまった。2022 年度より感染対策に十分注意を払い、人数制限をするという形で活動を再開することが出来き、2 年ぶりに 3 回の開催を行うことが出来たので報告する。

【活動報告】①2022 年 4 月 23 日：第 53 回「新人・異動者における教育～内視鏡における教育の必要性～」講師：内視鏡看護委員会副委員長、上田道子先生、参加者：29 名（うち世話人 8 名）②2022 年 7 月 2 日：第 54 回「内視鏡システムと周辺機器について」協力：富士フイルムメディカル株式会社、参加者：17 名（うち世話人 6 名）③2022 年 10 月 16 日：第 55 回「内視鏡関連の感染対策について」講師：内視鏡安全管理委員会、佐藤絹子先生、参加者：22 名（うち世話人 8 名）

【結果・考察】①2 年ぶりの開催で、人数制限の中多くの参加者が集まった。それほどにこの講義内容の需要が大きいと言える。アンケートでは、大満足が 13 名、満足が 7 名、普通が 1 名であり、「初心に振り返りながら教育・指導していきたい」「コーチングの基本は聴く、なるほどと思った。」などたくさんの意見・感想があがった。②少人数の参加ということもあり、メーカーと直接会話ができて、実際に機器に触れることで質問しやすい勉強会となった。アンケートでは、大満足が 9 名、満足が 2 名、普通が 0 名であり、「実際に使用してイメージがわいた」「内視鏡カメラの構造が見られて新鮮だった」などの意見があがった。③感染対策の基本から、感染事例とその原因、内視鏡と処置具のリプロセスのポイント、消毒機の取り扱いに関する留意点など、感染対策について事例を加えての講義であった。アンケートでは、大満足 8 名、満足 4 名、無記名 2 名であった。「内視鏡における感染対策の世界の動向も踏まえた方向性も知ることが出来て、おもしろかった。」「洗浄消毒の再確認と内視鏡室の感染管理の意識が高まった」などの意見があがった。

【終わりに】2 年ぶりの開催となり、感染対策に留意し、人数制限を行うことで年度 3 回の勉強会が開催できた。勉強会の回数を重ねるにあたり反省点を見出し、よりスムーズな勉強会が行えている。今後の活動においては、アンケートで今後やってほしいと要望があった大腸内視鏡検査における用手圧迫法、留置スネア、EMR 処置介助、前処置の事例検討などを検討している。また、今後も感染対策を徹底しながら皆様の声に添える内容で企画、提供して行きたい。

パネルディスカッション： 大腸内視鏡検査の前処置対応について

司 会 河北総合病院 谷道 清隆

今回のパネルディスカッションのテーマは「大腸内視鏡検査の前処置対応について」です。勤務している病院やクリニックでやり方や対応が違うと思います。

大腸内視鏡検査の前処置対応は、内視鏡診療における永遠のテーマとも言えると思います。日々の業務の中で、“他の施設はどのようにしているのか？”、“もっといいやり方があるのではないか？”など疑問を持ちながら働いている人も多いのではないのでしょうか。そして、コロナ禍で勉強会にも行けない、聞ける人もいない・・・そんな不安を抱えている方も多いと思います。

そこで今回は4名のパネリストに自施設での検査前処置対応を紹介していただき、その後、質問をして、病院やクリニックといった施設規模に関わらず、有効な前処置対応を話し合っていきます。

ぜひ、この機会に自分の疑問を聞いてみるのはいかがでしょうか。

・・・・・・・・・・ **今後の開催予定** ・・・・・・・・・・

第44回東京消化器内視鏡技師会セミナーの案内

日 時：2023年6月11日（日）9:00～16:00
開催形式：ハイブリッド（現地とWebライブ配信）
会 場：日本教育会館一ツ橋ホール（千代田区一ツ橋2-6-2）
参加費：4,000円（別途手数料220円）予定
定 員：会場とWebそれぞれ600名
証明書：機器取扱い講習会受講証発行
申込予約：要事前予約
プログラム（予定）

- プレゼンテーション
- ランチョンセミナー
- 機器取扱い講習（基礎編）
- 機器展示

**第45回東京消化器内視鏡技師研究会
開催案内と演題募集のお知らせ**

開催日：2024年2月4日（日）
開催形式：ハイブリッド（現地とWebライブ配信）
会 場：日本教育会館一ツ橋ホール（千代田区一ツ橋2-6-2）
証明書：研究会出席証
内 容：教育講演／一般演題／ワークショップ（予定）／機器展示

《演題募集》

業務に関する工夫、改善、提案など内視鏡に関するオリジナルな発表を広く募集いたします。

- 締め切り 2023年11月30日
- 応募資格 なし（東京以外の方や認定技師ではない方も応募できます）
- 応募方法

東京消化器内視鏡技師会ホームページの『お問い合わせフォーム』へご連絡ください。後ほど、抄録提出方法などの詳細をご連絡いたします。

開催についてのご質問は、ホームページの『お問い合わせフォーム』もしくは左のQRコードからお願いいたします。

